

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

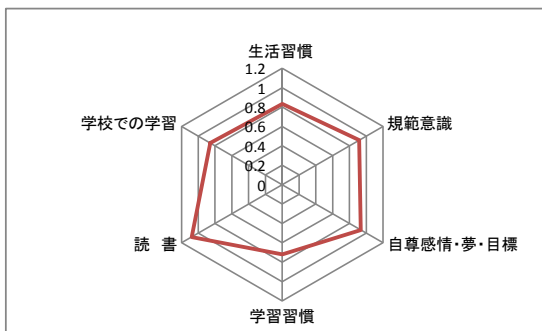
国語A	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、無解答率が全国よりも低い問題数が多かった。 ・短答式よりも選択式の問題形式の方が正答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的に応じて、図と表とを関係付けて読む問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・ローマ字で正しく書いたり読んだりする問題の正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っていて、無解答率が国語Aよりも高くなっている。 ・読む能力を問う問題に課題があり、読み取る力をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・グラフを基に分かったことを的確に書く問題の正答率が比較的高い。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、複数の本や文章を選んで読んだり、自分の考えを明確にしながら読んだりする問題の正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、無解答率が0の問題も多くあった。 ・選択式よりも短答式の問題形式の方が正答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・二つの数の大小関係を正しく捉え、適切に表現する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・1を越える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を問う問題の正答率が低い。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、無解答率が全国よりも低い問題数が多かった。 ・記述式の問題形式の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を問う問題の正答率が全国よりも高い。	
	努力が必要な問題	・式の意味の説明を記述する問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標をもっている児童や、人の役に立つ人間になりたいと思う児童が全国平均よりも高い。今後も、児童の自尊感情が高まるような取組を続けていきたい。 ・学習活動の中で、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと感じている児童が多い。話す・書く活動を授業の中に位置づけていく必要がある。 ・学校の宿題をきちんとしている児童は95%以上いるが、自分で計画を立てて勉強している児童が少ない。自分の課題を捉え、自主的に学習する態度を育てていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、話し合う活動や書く活動を位置づけていくようにする。 ・毎時間、「めあて」と「まとめ」を確実に板書し、児童が学習の見通しを持てるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各担任が「家庭学習チャレンジハンドブック」を定期的に点検するとともに、家庭学習に取り組むよう声かけをしていく。また、保護者に対し、家庭学習の取組について、継続して啓発していく。 ・学校として、きまりを徹底して守る姿勢を家庭に示し、児童への指導も徹底していく。今後も家庭と連携し、規範意識を高めていくように努めていく。
--